

産学連携／共同研究講座事例

慢性腎臓病患者における治療用特殊食品(低たんぱく質米)の使用がたんぱく質摂取量に与える効果に関する多施設共同無作為化比較試験



サトウ食品

BIOTECH JAPAN

FORICA

企業
亀田製菓株式会社

サトウ食品株式会社

株式会社バイオテックジャパン

ホリカフーズ株式会社
(新潟県内4社)

共同研究

新潟大学



大学院医歯学総合研究科(医学系)
腎研究センター 病態栄養学講座
特任准教授 細島 康宏

<技術シーズ>

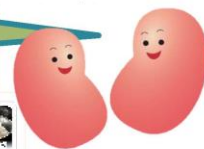
腎研究における低たんぱく質食事療法の
基礎的知見と臨床現場におけるニーズ

<主要事業>

安心・安全・健康とおいしさを消費者に届けることを
理念とした食品事業を推進する新潟県内4社が参画

新潟・低たんぱく質食事療法臨床研究プロジェクト

低たんぱく質食事療法の
臨床試験に参加してみませんか?



低たんぱく質食事療法の
臨床研究とは?

- 食事療法は慢性腎臓病 (CKD) 患者さんにとって、薬物療法と並んで重要な治療法のひとつです。
- 特に、進行したCKD患者さんでは低たんぱく質の食事が推奨されています。
- しかし日本人では… どの程度の低たんぱく質にすればよいのか? どの程度の期間続けなければならないのか? など、未だに多くのことがはっきりとわかっていません。



そこで

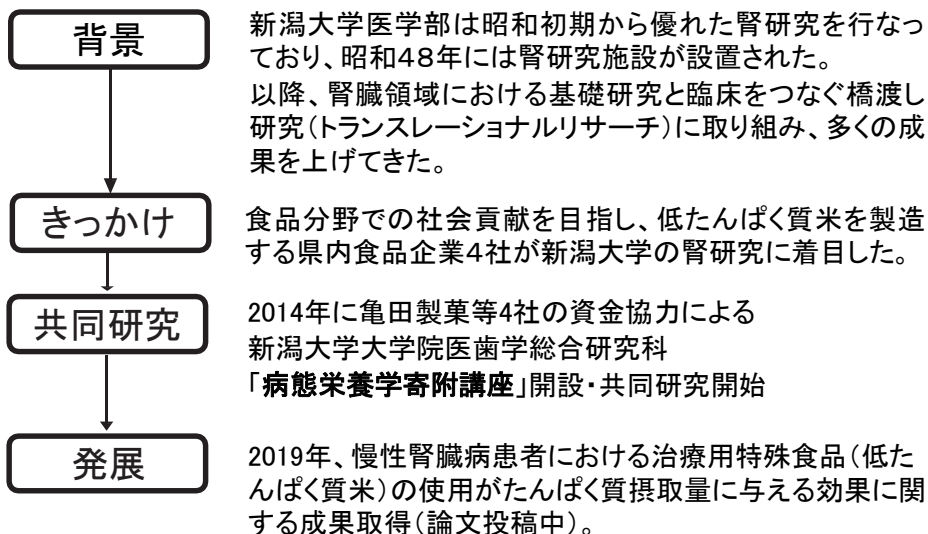
- CKD患者さんに栄養指導を受けながら、低タンパク質米を継続して食べて頂くという臨床研究を行い、低たんぱく質食事療法の効果を検討します。
- 対象は20歳以上75歳以下で、CKDステージG3b,G4もしくは尿蛋白のあるG3aの患者さんです

お問い合わせは
内科外来スタッフ もしくは
新潟大学病態栄養学講座
Tel. 025-368-9312

■ 企業の新たな事業・商品・サービス

慢性腎臓病患者が低たんぱく質食事療法を行う際の治療用特殊食品(低たんぱく質米)の有効性を腎機能や栄養状態に与える影響も含め検討しています。低たんぱく質米を利用してエビデンスに基づいた食事療法を臨床現場から提案し、慢性腎臓病患者のQOL向上を提供します。

■ 大学の研究シーズが社会実装されるまでのプロセス



■ 企業からの声

低たんぱく質米は、腎臓病患者さんの低たんぱく質食事療法において、たんぱく質摂取制限管理をサポートすることができます。患者さんのQOL向上と共にご家族の調理の手間も軽減することが期待されます。

■ 教員からの声

この研究結果から、低たんぱく質食事療法実施時には、低たんぱく質米が極めて有効なツールになることが示されました。

■ 今後の発展

本研究を基に、治療用特殊食品(低たんぱく質米)の使用が慢性腎臓病患者の腎機能に与える影響に関する長期試験を行っています。

本技術の問い合わせ先 新潟大学 社会連携推進機構

TEL:025-262-7554 FAX:025-262-7513 E-mail : onestop@adm.niigata-u.ac.jp